



2002年6月号 通巻第24号

スカウティング茨城



日本ボーイスカウト茨城県連盟
広報専門委員会 編集・発行
<http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/>

楽しく活動、楽しくチャレンジ!!

日本ボーイスカウト茨城県連盟理事長 佐野 英樹



平成13年度の本県連盟の50周年を記念する各種の事業では、皆さんの協力により大きな成果を上げることができました。本年度は、積み重ねられてきた50年の歴史に新たな1ページを加える新たな出発の年です。

●スカウト諸君へ……

楽しいスカウト活動でチャレンジ精神を発揮しよう。

4月から土曜・日曜の休日を利用し、活動できる時間が多くなりました。班長を中心に計画し実践する班活動を活発にし、進級章や特修章などの取得にチャレンジしてください。また、集会時には班善行を必ず実践して、社会に役立つ活動を継続して下さい。

第13回日本ジャンボリーが大阪で開催されます。参加するスカウトは日頃の基礎的な訓練の成果を発揮する機会です。茨城スカウトの力を十分発揮できるよう今後も自分自身の向上に努力して下さい。

第20回世界ジャンボリーの開催もあり、国際的な活動の機会が増えました。このようなチャンスにチャレンジするスカウトが多くなることを願っています。

「スカウトの仲間を増やそう」皆さんの周りの友達にスカウト活動の楽しさをPRし、一人でも多くの友達を仲間にし、この活動がもっと広がるようにしたいと思います。

●指導者のみなさんへ……

本年度は、学校週5日制で子供たちをとりまく環境が大きく変化する年です。スカウト運動の基本を踏まえ、時代の変化に対応できる運動として発展できるよう、皆さんの更なる取り組みをお願いしたいと思います。

さて今年度は、13NJ・20WJが開催されます。一方で、ボーイ部門の進歩課程の改定・施行など、スカウトに直接係わる事項もあります。これについては指導者各位が共通の理解を深め、活動に支障がないよう配慮して下さい。

また、組織の拡大は数年来の課題です。中途退団者を少なくする方策など、団や隊の指導者の皆さんとともに取り組んでいきたいと思っています。

進歩への取り組みとしては、団委員長はじめ隊長・保護者のご尽力で「菊章」「富士章」スカウトが増加しています。指導者も研修を常に心掛け、スカウトともに成長しなければなりません。家庭の大事な子供を預かる立場のわれわれは、保護者から頼りになり、かつ魅力ある指導者としての資質が求められるし、それがこの運動を確実なものにする大切な要素の一つであると思っています。

今年も、各団・各隊の基盤を強化し、この運動の発展に努力していきましょう。



「あの日から」

茨城県連盟 名誉会議議員

相馬 順敬



1951年

昭和26年5月20日

戦争で 一度消された

スカウトの歴史の “ともし火”が

茨城の地に 再び ともされた日

16コ隊 400名のスタートだった

あの日から 50年

今 茨城県連は

57コ団 238コ隊 4102名となった

ここまで 50年

でも あの日集まった 先輩達の顔は

もう 殆どが 見ることは出来ない

長い 道のり

大変な 努力

その 努力と“願い”を背中に

いま 私たちがいる

ユニフォームを揃えるのも

訓練の備品を集めるのも

キャンプ地へ行くのだって大変だったが

それが とてもうれしかった あのところ

大きなリュックを背負い

野営資材を 手で持ち

満員の列車で行った 夏のキャンプ

それも 遙か 昔の記憶

まわり道をしたり

困難にくじけそうになったりした

50年という歳月の上に

今がある

隊制度が団制度に変わり

年少隊が カブに 少年隊が ボーイに

年長隊が シニアから ベンチャーに

青年隊がローバーに変わった

4年ごとの ジャンボリーも

台風の影響ばかりが 残っている

変わった

人も代わり 世の中も変わり 心も変わり

スカウティングのスタイルも変わってきた

しかし

B-Pのねがいは

いつになっても 変わらないはず

ちかいとおきてというコンパスを

私たちは 捨ててはならないのだ

今年の夏は 異常な暑さ

今日の設営も 汗びっしょりだった

だけど スカウティングは自発活動

どんな条件の中でも

せいっぱい 工夫して

自然の中で 生きるのが スカウト

さあ これから

キャンボリーのプログラムが始まる

徹営のとき

「感謝」と「思い出」を

見つけることが出来るよう

4日間を 大切に 過ごそう

(2002.8.9)

これは、第15回茨城県キャンボリー(2001年)の開会式に、50周年を記念して朗読して下さった詩です。

相馬先生は、茨城県連の副コミッショナー(S42-52)、事務局長(S47-51)、理事(S55,56,59-62,H3-5)、名誉会議議員(S57,58,H63-H2,H8-)を歴任をされる一方、日本連盟では、リーダートレーナーとして指導者の養成に尽くされ、また宗教委員会委員長としてご活躍されました。また、多くの有益な資料を作製されたことでも有名です。そんな先生の訃報を聞いたのは、本年1月19日のことでした。

4

第4地区

思いがけない発見、巣箱のかけ替え

11月3日に、神栖第1団カブ隊では、神の池公園に設置した巣箱のかけ替えを行いました。

この巣箱は、2年前の3月のプログラムでシジュウカラなどスズメよりも小さな野鳥のために作ったもので、全部で19個あります。それを武道館の南側の木の地上から3~5mのところにかけたのです。その際に神栖自然を楽しむ会の方に巣箱作りとともにその管理も大切だということを知りました。2000年は不覚にもかかけ替えの次期を逸してしまったので、今回は2年越しということになってしまいました。この期間、野鳥が

巣箱をりよしているかなぁと何度も様子をつかがいに行ったのですが、その姿を見かけることはありませんでした。当時うさぎのスカウトも今はくまスカウトとなっており、また当時のことを知っているリーダーも少なく、隊長として時間を経過を感じました。

いよいよ巣箱ははずしてみると、なんと18個の巣箱に営巣の跡がありました。もっとも残りの1つは、カラス天狗でも入りそうな大きな巣箱で、出入り口も四角で大きいものでした。これらの巣箱は、枯れ草を取り除き、たわしで水洗いし、改修しました。もちろんカラス天



狗用のものも入口を小さくしました。そしてリハウスされた巣箱に新築1つの20個の巣箱は、今度はバーベキュー広場に場所を移して設置されました。

今度こそ、小鳥が実際に利用している様子を観察できたらいいなあ。今後も身近なところから自然と関わっていきたいと思います。

5

第5地区

プログラムの「素」研究会

もと



第5地区では、11月24日(土)に、ちょっと変わった名前の研究会を開催しました。その名もプログラムの「素」研究会です。これは指導者がすぐさま

自隊のプログラムに活かすことができ、幅広い分野から気軽にチョイスできる、そんな取り組みやすさを売り物にした定型外訓練があってもいいだろうと言う……というところから始まったものです。

第1回は、自然環境問題の研究、竹を利用したスカウト技能の向上、それらのプログラムへの展開、の3つを軸として、戸舘ALTを主任講師に招いて

実施しました。実際の内容は、竹の切り出し、里山のお話、刃物の類の取扱方、竹を使った食器づくり、竹を調理器具として使った料理(炊き込みご飯、蒸しパン)、竹工作の製作と発表……と欲張ったものですが、楽しみながら創意工夫をして作り上げるという、和気藹々の雰囲気の中で大きな成果を得て、無事に終了しました。



翌日のグループディスカッションでは、今まで実施してきたことを「リーダー」の立場になって検証しました。

参加者の感想を聞くと「やればわかる」「体験することで自分に技能が身についていくことがわかった」「常に遊びゲームを通して何かを学ばせる」「班で分担すれば仕事が速く、また協力すればより大きなことができる」等々、それぞれがスカウトティング・スピリッツを感じ取ってもらえたようでした。そう、スカウトティングはだれがやっても楽しいモノなのですよね。

県

茨城県リーダーボランティア研修会

ボーイスカウトの神髄を伝授？

平成14年6月15日、16日の両日千代田町の県立中央青年の家において、茨城県の「地域で育てる元気っ子体験村事業」の実施に携わるリーダーボランティアのための研修会が実施されました。この事業の講師としてボーイスカウト茨城県連盟に要請があり、県連から9名の講師を派遣しました。

この事業は、①自然(野外活動)体験②異年齢との交流③地域を知る活動④地域で働く活動⑤地域の人との交流⑥その他の体験活動の6つの体験活動で構成され、今回の研修では①の「自然(野外活動)体験」についての具体的な3つのプログラムを提供し、参加者に実際にそれを体験してもらいました。

参加者は、高校生・大学生が中心で、

6~7人のグループになって行動します。研修はプログラムのプレゼンで始まり、参加者は「これは！」というプログラムに自主的に参加します。県連盟で用意したのは「忍者修行」「原始体験」「サバイバル体験」の3つで、それぞれ6名がエントリーがありました。早速12時間に亘るプログラムが始まりました。初めは固かった参加者もすぐに担当リーダーのペースにはまって生き生きと本来の自分の持ち味を発揮し、積極的に活動しはじめました。原始体験とサバイバル体験の2チームは、食材を近くの山で狩ったり採ったりし、竹を切り出して食器や調理器具を作って食事。そしてキャンプファイヤーで1日が終わりました。



県連創立50周年事業を振り返る

21世紀の夜明け(2001元旦 和田岬)



●**プレ事業 第10回茨城県カブラリー第1回ビーバーラリー**
新しい時代の到来を感じさせるイベントだった。



●**5月20日は県連の誕生日**
各地区で50周年を祝うイベントが開催された。



●**8月9-12日 15IC**
酒沼自然公園で開催。いつになく厳粛な雰囲気であった開会式。たくさんのプログラム、楽しいステージやFM局、そして韓国隊の参加など、盛りだくさんの大会だった。



21世紀へのスカウト宣言

- ビーバー部門**
わたしたちは、ともだちもしぜんもだいじにします。
- カブ部門**
自然を愛し、友達を大事に、チャレンジ心をもって、積極的に行動します。
- ボーイ部門**
スカウトは、世界の子ともたちと手をつなぎ、世界平和に貢献します。
- ベンチャー部門**
世界に向けて友情の輪を広げ、何事にも勇敢にtryします。
- ローバー部門**
地球の仲間と手に手を取り合って、同じ立場で活動し、人種民族間の偏見差別をなくし、不平等を廃絶しあらゆる領域でバリアフリーな社会を創造する。



●**11月11日 ボーイスカウト茨城県連盟 創立50周年記念式典・祝賀会**
ホテルレイクビュー水戸において、延べ1,000人を集めて盛大に挙行了。第1部はスカウトアニバーサリー、第2部は記念式典、第3部は祝賀会。司会・進行および演出は、次代を担うローバースカウト&若手リーダーが担当、みごとその重責を果たした。



●**1月19日 指導者の集い**
学校週5日制の対応とスカウト活動の国際化について研究した。



●**3月16日 創立50周年 エンディングセレモニー**
水戸京成ホテルにおいて、関係者約40人により実施。これまでの歴史とこの1年間の取り組みを振り返り、次の1年、そして次の50年に向かって決意を新たにすると共に、茨城県のスカウト運動の更なる発展のために仲間と共に進んでいくことを確認した。



茨城県連盟の 50年を 振り返る

茨城県連盟は今年で50周年を迎えました。この間の皆さんを含めて、実に多くの方々がこの運動に携わってきました。皆さんの情熱と力があってこそこの50年なのです。

さて、茨城県のボーイスカウトの歴史を振り返ると、もう少し過去にさかのぼることができます。ここでは、茨城県にボーイスカウト運動が芽生え始めた頃から見ていきたいと思います。



徳川連盟長



佐野理事長

1907年 明治40年
ベーデン・パウエルがブラウ
ンシー島で実験キャンプを
実施。
1908年 明治41年
スカウティング・フォア・
ボーイズ出版される。北条
時敬、英国でボーイスカウ
ト研究。
1912年 明治45年
ベーデン・パウエル来日



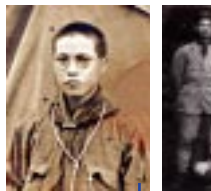
1923年 大正12年

三島通陽(のち4代日連総長)は佐野琮治の
招きで笠間で講演。これがきっかけとなり
ボーイスカウト設立の機運が高まった。



1925年 大正14年

佐野らが日本最初の中央
実修所に入所。県内
では常陸太田、小川町
ではじめ続々と少年団
が結成されていった。
1931年 昭和6年
少年団日本連盟茨城県
連盟が結成された。第
二次大戦のため解散。



1947年 昭和22年

戦後、佐野は、県連復興のため
塙・打越らとともに立ち上がり、
関東一円の再建を志す者
と共に那須の三島家に集まった。
その一方で、指導者の養成にも
力を入れた。戦後初の指導者
講習会を、笠間の佐白山で行った。
1949年 昭和24年
久慈1隊、西茨城1隊、土浦1隊、
西茨城2隊、久慈2隊、3隊、土浦
2隊、水戸1隊、真壁1隊、筑波
1隊・続々と県内各地でボー
イスカウト隊が発足していった。

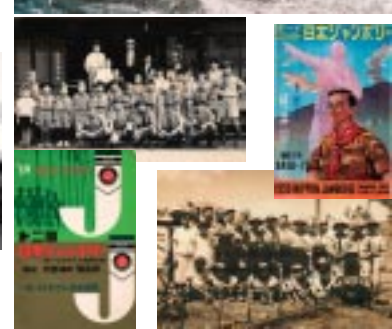


1951年 昭和26年

5月20日、三島総長ご
夫妻をお迎えし、16隊400名を
もって茨城県連盟が結成。水戸
駅から茨城会館までパレードを
行った。連盟長に徳川宗敬、理事
長佐野琮治。この年蔵王で開催
された全国大会に8隊300名を派
遣。



蔵王全国大会



1956年 昭和31年

第1回日本ジャンボリー(軽井沢)に
13隊240名。
1959年 昭和34年
第2回日本ジャンボリー(あいば野)
に11隊214名を派遣。台風の直撃
を受けて全員が避難。第10回世界
ジャンボリーに山田副理事長、
松山第2地区委員長がスカウトで
参加。



1960年 昭和35年

10周年記念大会(写真上)。第5回
ジャンボリー大洗海岸野営大会(写
真中)。
1963年 昭和38年
第1回年少スカウト交歓大会(カ
ブラリー)。
1965年 昭和40年
15周年記念大会(写真下)。
1968年 昭和43年
第7回茨城県ジャンボリー(取手
市キャンの森)(写真右)

1907年
明治40年

1923年
大正12年

1931年
昭和6年

1947年
昭和22年

1951年
昭和26年

1956年
昭和31年

1961年
昭和36年

1966年
昭和41年

2001年
平成13年

2001年 平成13年
いろいろな県連創立50周年
記念事業が実施された。8月
には第15回県ジャンボリー
が酒沼自然公園で開催。11
月には50周年記念式典が水
戸で実施された。



1996年
平成8年

1996年 平成8年
第5代副理事長就任。昨年から
シニアの海外派遣実施、
オーストラリアへ。98年まで
4回延べ100人が参加。
1997年 平成9年
第14回県ジャンボリー第4回
関東ジャンボリーが群馬県相
馬が原で開催され763名が
参加。日本連盟では75周年
記念式典が行われ県連若手
リーダーが中心となって大
活躍。
1998年 平成10年
第6代川又理事長就任。
第12回日本ジャンボリーが
秋田県森吉山麓で開催。
1999年 平成11年
第10回カブラリー第1回
ビーバーラーが笠間で行われ、
新しい時代の波の到来を感じ
た。
2000年 平成12年
第7代佐野理事長就任。
第5回ベンチャー大会が大分
県久住高原で開催。また日
本連盟主催日米スカウト交
換計画派遣が行われる。



1991年
平成3年

1990年 平成2年
第2代副連盟長、第4代吉田理
事長就任。第10回日本ジャン
ボリーが妙高高原で開催され
540名を派遣。
1991年 平成3年
県連40周年記念式典。第17
回世界ジャンボリーが韓国で
開催。
1993年 平成5年
第13回県ジャンボリーが勝
田で開催。第1回アセアン
ジャンボリーがフィリピンで
開催され派遣団長以下5名
が参加。
1994年 平成6年
第11回日本ジャンボリーが
久住高原で行われ538名が
参加。
1995年 平成7年
第9回カブラリーが笠松運動
公園で開催。第18回世界
ジャンボリー(オランダ)に
14名が参加。



1986年
昭和61年

1986年 昭和61年
第9回日本ジャンボリー宮城
蔵王で行われ542名が参加
このとき台風が直撃。県連
主催のSS海外派遣がハワイ
で行われ1990年までに5回
実施。
1987年 昭和62年
第7回カブラリーがつくば
洞峰公園で、第16回世界
ジャンボリーがオーストラ
リアで開催。
1989年 平成元年
第12回県ジャンボリーが那
珂町・日本原研所有地で
行われ、またしても台風の
直撃を受ける。



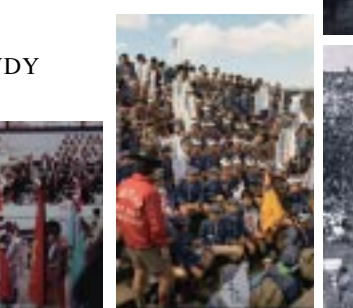
1981年
昭和56年

1981年 昭和56年
県連創立30周年記念式典、
第10回県ジャンボリーが勝
田市・陸上自衛隊演習場で
実施。
1982年 昭和57年
第8回日本ジャンボリーが
宮城県南蔵王で行われ447
名が参加。
1983年 昭和58年
第15回世界ジャンボリー。
第6回カブラリーでは3000
名ものスカウトが千波湖に
集まる。
1984年 昭和59年
第3代橋本千代寿理事長が
就任する。
1985年 昭和60年
国際科学万博開会式奉仕に
125名のスカウトが奉仕。
関東ジャンボリーが群馬
県相馬が原で開催され1005
名が参加し、HOWDY
IBARAKIを披露。



1976年
昭和51年

1973年 昭和48年
第8回県ジャンボリー(北茨
城・茜平)、第6回日本ジャン
ボリー(千歳原)、第14回世界
ジャンボリー(ノルウェー)が
開催。
1977年 昭和52年
第8回県ジャンボリー(勝田)。
1978年 昭和53年
この年に第2代岩瀬理事長
が就任。第7回日本ジャン
ボリーが静岡県御殿場で行
われ390名が参加。
1979年 昭和54年
第5回カブラリー。10年ぶ
りに復活、日立市かみね公
園で開催。(写真下)



1971年
昭和46年

1970年 昭和45年
第5回日本ジャンボリーが
静岡県朝霧高原で開催。
(写真下)
1971年 昭和46年
第13回世界ジャンボリーが
同地で開催。茨城県連盟
から合同隊3隊120名が
参加、台風がジャンボリー
を襲い避難命令が出された。





第1回 国際交流海外派遣 (韓国) 派遣報告



【第1回韓国海外派遣を終えて】

派遣団員 竹本 俊一

交流キャンプの中でスカウト達は、ネームカードの交換をしましたので、スカウト同士がことばの壁を乗り越え友達になり、互いに行き来しスカウト同士の交流を深められればと思っています。また、国際交流の楽しさに目覚め何名かのスカウトが20WJに参加申込をしてきたのも海外派遣の効果ではと思っています。今回の韓国訪問が「近くて遠い国」の韓国を名実ともに「一番近い隣の国」になる為の一石を投じた事になると思います。その波紋を広げるには今後も継続した交流を続けることだと思っています。

派遣団員 三浦 勉

5日目に韓国連盟のキャンプ場に向かい、いよいよ交流が始まった。開会式後の交換会や翌日の昼は韓国の郷土料理を中心に交歓し、お互いの言語で相手国の連盟歌を歌い合い、短期間によく練習したと感心した。特に午前VSフォーラムは本当に中身の濃いフォーラムであった。また、キャンプファイヤーではスカウトが寒い中で盛り上がり、楽しい楽しい集いの一時を過ごした。韓国スカウトは月曜

日から授業があるため21時頃に私達に別れを告げながら、名残り惜しそうに帰っていった。我々全員も同じ気持ちであることには変わりはない。

派遣団員 八木 雄二

この派遣を通じて感じたことは、スカウトに機会を与えれば彼らは大きな自信と誇りを持ち帰ることができるということです。また、スカウトにとっては、ほとんどが初めての海外でありましたが、韓国スカウトとの交流、特に「交流營火」や「フォーラム」などのプログラムにおけるスカウト同士の友情は心に残るものでありました。さらに班プロジェクトおよび個人プロジェクトでソウル市内での班行動を通じて、韓国の人々の優しさ、親切さを感じ取ったスカウトも多数おりました。最後に、この派遣を成功裡に終わらせることができたのは何と云っても、韓国連盟ソウル南部連盟とりわけソンバ地区の役員、指導者の方々の献身的なご協力があったからであります。この協力関係を大切にし、次回の派遣に続けていく事が私自身に課せられた使命であると考えています。

【派遣団報告書「団員報告」より一部抜粋掲載】

ボーイスカウト茨城県連盟

第1回 国際交流海外派遣(韓国)派遣報告

1. 派遣団組織

- 派遣団本部 団長 竹本 俊一(県連副理事長)
 団員 三浦 勉(県連事務局長)
 団員 八木 雄二(県連国際委員長)
- 派遣隊 隊長 鹿野 和夫(日立5団)
 副長 川崎 寿美(ひたちなか1団)
 副長補 吉川 勇(水戸4団)
 副長補 草間 歩(水海道1団)
 スカウト 19名(VS:10, BS:9)

2. 派遣日程

- 3/26 13:00 水戸青少年会館集合(プロジェクト活動、結団式および壮行会)
- 27 5:20 青少年会館出発 9:30 成田発 11:40 仁川国際空港着
 午後 研修活動「統一展望台」
 ソウル教育文化会館泊(3/27～29)
- 28 午前 韓国連盟および韓国連盟ソウル南部連盟表敬訪問、韓国連盟需品部訪問
 午後 班別行動「プロジェクト活動」
- 29 終日 研修活動「独立記念館」「韓国民族村」
- 30 韓国連盟中央キャンプ場(毘地岩)にて交流キャンプ。開会式後、交歓会実施
- 31 午前 プログラム
 ・ベンチャースカウトはスカウトフォーラム
 ・ボーイスカウトは交流会
 午後 プログラム
 ・凧上げ ・料理 ・革細工 ・アスレチック
 夜間 プログラム 交流営火
- 4/1 終日 班別行動「プロジェクト活動」
 ソウル教育文化会館泊
- 2 6:00 教育文化会館出発、10:50 仁川発、12:40 成田着、13:30 解団式、14:00 解散

3. プログラム展開

●国際交流

- ・3/30-31にソンパ地区を中心とする韓国連盟ソウル南部連盟のスカウトと交流キャンプを実施
- ・韓国側の参加者は指導者20名、スカウト50名(内、ベンチャースカウトは12名)
- ・班別に韓国スカウトと一緒に交流プログラムを実施、特に交歓会、交流営火は大いに盛り上がった。

●スカウトフォーラム

- ・3/31午前、ベンチャースカウトによるスカウトフォーラム開催
- ・出席スカウト日本側10名、韓国側12名、その他通訳および両国の指導者
- ・フォーラムのまとめとして日本側スカウトから「永遠(とわ)に続く友情の輪を」、韓国側スカウトから「これ以上の壁はない」という提言がなされた。
- ・非常の意味のある、また有意義なフォーラムであった。

●プロジェクト活動

- ・今回の派遣においてはスカウトを4班に分け、各班毎に班プロジェクトおよび個人プロジェクトの活動

を実施することとした。

- ・プロジェクト内容は3回の事前訓練にて内容の確認と指導を実施し、派遣期間中2回の班別行動で活動を展開した。
- ・活動結果は帰国後の事後集会(1回目は4/13-14、2回目は5月予定)で取りまとめる。

●研修活動

- ・研修活動として「統一展望台」「独立記念館」「韓国民族村」を見学
- ・「統一展望台」は漢江を国境にして民族が南北に分断している韓国の現実を肌で感じられるところである。スカウトは厳しい現実を感じていた。
- ・「独立記念館」は韓国の独立運動に参加した人たちの業績を伝えるために設立されたものであり、第二次大戦の戦前、戦中における日韓の関係についても展示している。スカウトには初めて直面する事実もあり、中にはショックを受けたスカウトもいた。これが現実であることを直視してほしい。
- ・「韓国民族村」は韓国の伝統文化を紹介する生きた博物館である。韓国の民俗芸能にふれることができ、各種のイベントも開催されていた。楽しい時間を過ごした。

4. その他

- ・今回の海外派遣は県連としての新たな海外派遣の第一歩と位置付け、国際専門委員会において2年にわたる計画検討と具体的プログラムの策定の結果であります。
- ・この間、県連および県コミッショナーグループ、各種委員会など多くの方々にご協力をいただきました。ありがとうございました。
- ・また、韓国連盟ソウル南部連盟とりわけソンパ地区の役員、指導者の方々の献身的なご協力があったの派遣成功であったと考えます。
- ・派遣スカウトにとってはほとんどが初めての海外でありましたが、大きな自信と誇りを持って帰国しました。今後のスカウティングに大いに役立つものと確信します。
- ・疲れと食事の面から体調をくずしたスカウトがいましたが、ソンパ地区指導者およびキャンプ場関係者の協力により対応ができました。今後の課題です。
- ・今回の派遣からスカウトに活動の場を与えることにより、スカウト自身は大きく成長することが実感されました。特にスカウトフォーラムにおける日韓スカウトからの提言は大いに感動させるものでありました。



東西南北かわら版

平成13年度 富士章受賞スカウト顕彰

平成14年3月22日～23日にかけて、日本連盟山中野営場(山梨県)において、平成13年度に富士章を受賞したスカウトの栄誉を称え、ベンチャープロジェクトの報告・討議をすることで、今後の活躍を期待する「富士章受賞スカウト顕彰」がまた、同月25日～26日には、東京三鷹のボーイスカウト会館で「平成13年度富士章受賞スカウト代表表敬」が開催され、本県連からはそれぞれ2名と1名が参加しました。

●平成13年度富士章受賞スカウト顕彰参加報告

千代田第1団 秋葉 純

今回参加した、富士章受賞スカウト顕彰は大変に有意義なものでした。特に他の都道府県連盟のスカウトと出会えたのが良い刺激となりました。また、ボーイスカウト運動に参加している人は個性が強い人が多いなと感じました。その中でも、富士章を目指す人は特に強い個性を持つ人が多いと感じました。この刺激は是非後輩スカウトにも感じてもらいたいと思います。自分自身のスカウト運動に対する考え方、自分自身を見つめ直すための良い機会になると感じました。

この、スカウト顕彰に参加して痛感したことがあります。「海外への派遣隊には是非参加すべきだ。」と強く思いました。現地で編成された、私の班でも私以外のスカウトは海外への派遣隊に参加したことがあるとのことでした。彼らが言うには「海外に行くと自分の視野が広がる。」「物の見方が変わる。」と言っていました。富士章を取得する条件として海外派遣隊への参加は条件に含まれていませんが、富士章を目指すならば一度は海外は倦怠への参加を経験したほうが良いと思いました。

私は富士章顕彰キャンプが終わった時に2つの課題を決めました。1つは私が経験したことを後輩スカウト達にどう伝えていくかということです。これは指導者として活動し、各研修所や実修所に参加して模索していこうと考えています。2つめは、今回富士章顕彰キャンプで出来たネットワークをいかに維持していくかということです。海外派遣隊に参加したスカウトの人達も、派遣大河解散すると連絡をあまり取らなくなる人が多いようです。そのようなことにできるだけならないように、手紙やインターネット、電話等を活用して密に連絡を取り合って行きたいと思います。

以上、富士章顕彰に参加した感想とこれからの抱負を報告します。

●平成13年度富士章受賞スカウト顕彰に参加して

水戸第4団 加藤 貴裕

私は富士章受賞スカウト顕彰に参加しました。これは、その年に富士章を受賞したスカウトが多く参加し、今までどのようなスカウト活動をしたか、また、今後の活動について話し合いました。集まっている人が、自分の興味のあることを

やってきたので、そのプロジェクトについて詳しく聞くことができ、とてもためになりました。

ここで一番印象に残ったのは、大きなプロジェクトがすばらしいプロジェクトになるとは限らないということです。どんなに規模が小さいものでも事前の調査や計画をし、活動後の考察、反省をすれば立派なプロジェクトとなり得ます。これを忘れずにこれからの活動に活かしていきたいと思いました。

ここまでだと固い合宿だと感じるかもしれませんが、くだけて気楽な時間もありました。その中でも、夜の立食パーティーは格別でした。自由に話せる時間が長く取ってあり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。ちょっとしたゲームや出し物もあり、飽きることなく、計画のすばらしさを感じ取ることもできました。今思えば、このパーティーがとても楽しい時間になったのは、やはり「めりはり」のある進行のお陰だったのかもしれない。

この合宿でメインだと感じたのは、やはりより優秀なプロジェクトを行ったスカウトの発表でした。確か、発表したのは5人でしたが、紙でポートを作り川を下ったり、牛の受精にかかる時間と性別の関係について実験したりと、ほとんどの人が話し切ることができずに終わってしまったのが唯一残念に思った点でした。聞いている側の質問が絶えず、もっと時間があれば、さらに内容の濃い発表会になるだ漏斗考えます。その後の他の人の感想を聞いてみると様々なものがあり、とらえ方の大きな違いも注目すべきことでした。この様に、聞く側も発表者の善し悪しに関わっているのです。

以上が今回のだいたいのプログラムでした。この合宿が、単に富士スカウトを祝うだけのものではなく、学ぶことの多いスカウト活動であったことを嬉しく思います。

●平成13年度富士章受賞スカウト代表表敬に参加して

水戸第8団 後藤 佑介

2日間に亘って行われた富士章スカウト顕彰は、とても有意義で貴重な体験となりました。1日目は、東京のスカウト会館に集まり、そこで全国の富士スカウト達と出会いました。ここに集まったスカウトは、いわば難関を突破してきた人達ばかりで、彼らと話し合うことで改めてボーイスカウトの意義と楽しさを知ることができました。

2日目に東宮御所で皇太子殿下に謁見しました。私にとって、これ程の緊張感は初めてで、皇太子殿下に話しかけられた士気は頭の中が「真っ白」で、うまく答えられなかったのが後々になって悔やまれました。その後、小泉首相、遠山文部科学大臣の所へ表敬訪問に伺い暖かい声援を頂きました。

私にとって、この顕彰に参加してよかったことは、全国の富士スカウトと会えたことでした。自分は何のアワードやった。こんなことをしたらみんなに楽しんでもらえた。次はもっと違ったことをしてみたい。等々、様々な話を聞けて、自分とはまた違った富士スカウトの雰囲気を感じることがで

きました。わずか2日間の期間で時間もあまりなくて十分に話すことができなかつたけれど、またいつか会う機会があれば、今度は何かを一緒にしてみたいと思いました。

私はボーイスカウトを通して、学校では習わない貴重な体験を学びました。それは自分達で作って、自分達で達成するというものです。これは実社会でも必要なことであり、これから生きていく上で間違いなく役に立つものとなるでしょ

う。私もボーイスカウトで学んだことを生かし、微力でも社会に貢献していきたいと思います。

最後に、私の富士章取得に協力してくれたリーダー達、先輩、後輩、並びに関係者の皆様に感謝します。

(県進歩委員会「平成13年度富士章受賞スカウト顕彰報告書」より転載)

コミッショナー通信

県副コミッショナー 吉川 勲

アダルトリソース方針のこと

アダルトリソース方針(以下AR方針)は、各方面で不安と恐怖のうちに囁き声で紹介され、具体策が見えないままにいつの間にか風化しかかっているように思えます。やれリストラだ、外部人材登用だ、と様々な噂がありましたが、どうも誤解が多いようです。

AR方針は、1988年のメルボルンの世界スカウト会議で採択された「スカウティングのための戦略」を受けて、1990年のパリ会議において「青少年プログラム」と共に採択された「スカウティングにおける成人(AIS)」の原理に基づき、1993年のバンコク会議で採択された「世界AR方針」によって一般的に使われ始めた言葉だと思えます。一言で言えば、「スカウト運動における成人指導者のあり方」です。

AR方針に先立ち、スカウト訓育のための各国の基本方針の強化を図った「プログラム開発」があり、社会における意志決定への青少年の関与を推進するための「青少年プログラム」があったことがよく知られていません。世界のスカウティングは「地域における青少年の健全育成」というミクロな運動から発展し、地域開発から国家的啓蒙活動や世界平和といった地球規模での人類社会の構築に直接的・積極的に関わることを目指しています。特にスカウティングの内容に劇的な変更があるわけではありません。これまで、「講習会」や「規定集」の片隅の追いやられていたスカウティングの原理を再確認し、運動の方針を拡大・強化し、本来の目的を達成しようというものです。

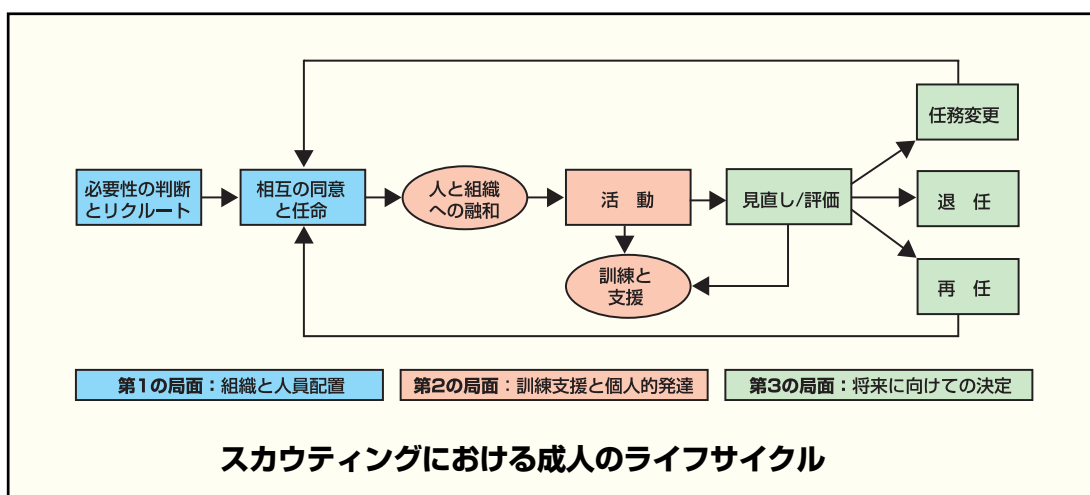
スカウティングはスカウトが実践するものであり成人はその活動を支える、という当たり前(と誰もが思っていた)ことを明確にし、組織として本来やるべきでありながらやってないことやスカウト支援に不具合になった制度に手を入れようというのが、AR方針です。スカウト運動は

組織を通して実践されますから、スカウト組織にこれまでに存在しなかったものを導入するのではなく、新しい方針を持ち込むと考えればよいと思います。

では何がどうなるのかというと、日連としてもまだ模索中です。大きなスカウト運動ですからやるべきことが多すぎるのです。しかし、誰にでもできることは、自分はスカウト運動に参加して「なすべきこと」を実践しているかを再認識することです。スカウティングの原理に対する理解を深め、それをいかに実践するかを考えることです。

昨年から実施されている「何(誰)のためのスカウティングか」というワークショップが茨城県連盟でも実施されますが、この目的はスカウト運動に関与する成人の意識の共有を図ることです。かんたんに見える「スカウティングの原理」は実は実践しようとするとなかなか問題が発生します。自己流のスカウティングではいけないのです。経験や研修を積んだ成人指導者といえどもこのような機会に、運動に関与する上での意識の共有を図るべきでしょう。

手始めに、「2002年へのアクションプラン」をチェックし、自分に与えられた任務を果たしているかどうか自問してはいかがでしょうか。「成人のライフサイクル」の図は随分浸透していると思います。これは本来あるべき姿です。1～2年内にも適用されますが、それを待たずに身近なコミッショナーを交えて意見の交換をし、意識の共有を図ってください。



★県連 インフォメーション

●ウッドバッジ研修所開設のお知らせ

◆WB研修所 ローバースカウト課程関東第1期

日 時： 9月13日(金)～16日(月) 3泊4日野営
 場 所： 土浦市立 土浦青少年の家
 参加費： 15,000円
 資 格： 現在ローバースカウト指導者、または指導者講習会を修了し指導者となられる方で、平成14年度の登録が完了している方。

参加申込 基本訓練申込書に必要事項を記入し、団委員長の同意と地区コミッショナーの推薦を受けて、課題研修を添添えて7月25日までに県連事務局に申し込んでください。

●県連の正式名称が変わりました。

この度、県連の正式名称が変わりましたのでお知らせします。(旧) ボーイスカウト茨城県連盟→

(新) 日本ボーイスカウト茨城県連盟

●指導者のための各種研修は・・・

県連ホームページの「指導者訓練日程」をご覧ください。

- ・ウッドバッジ研修所
- ・各地区主催の定形外訓練

等の情報が掲載されています。

【URL : <http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/> ---】

県連ホームページは、今後、スカウト活動に、そしてスカウトの指導に役立つHPを目指していきたいと思ひます。是非見に来てください。

WOOD BADGE



ウッドバッジ研修所

いずれも「土浦市立土浦青少年の家」にて



カブスカウト課程茨城第30期 竹内由比子所長 32名
2002.5.3-5.6



ベンチャースカウト課程茨城第5期 吉田俊仁所長 12名
2002.5.3-5.6

★スカウトくイズ 「まほうじん25」

8	1	6
3	5	7
4	9	2

さて、今回はちょっと趣向(しゅこう)を変えて、魔法陣クイズでいってみましょう。ここで言う魔法陣とは(左の図を例にとると)、1から9までの数が9個のマスに入っていて、その縦・横・斜めそれぞれの列の3つの数をたすと、その答えはすべて同じ(この例では15)になるもの・・・なのである。

さて、今回の問題は、これから暖かくなっても頭がポケーっとならないよう4×4を飛ばして5×5の魔法陣を作ってもらおうというもの。だけど、ちと難しいので、ところどころにヒントを入れてみました。がんばってつくっておくれ。

回答は、官製はがきに5×5のマスの魔法陣を記入して送ってください。

- ①所属団隊 ②住所 ③氏名 ④電話番号
- ⑤スカウティング茨城の感想

を書いて、下宛宛に送ってください。正解スカウトの中から抽選で5名に素晴らしい賞品をお送りします。

(×切は、平成14年8月30日、当日消印有効です。)

〒310-0034 水戸市緑町1-1-18 県立青少年会館
ボーイスカウト茨城県連盟事務局 SC24クイズ係

		1		15
	5			
	6			
	12	19		3
11				

前回の正解者は次の4名です。

- 神栖第1団 カブ隊 松沢結理香 さん
- 日立第1団 ビーバー隊 北見 涼 くん
- 日立第1団 カブ隊 北見 啓太 くん
- 阿見第1団 ボーイ隊 野口 円 さん

以上4名、おめでとうございます!!

●前回の正解

- ①うさぎの片耳 ②うさぎの手 ③ベンチャーのシャツのそで ④くまの耳 ⑤足場パイプ筋交い ⑥後ろ向きのリーダーの背中の中の文字 ⑦女性ローバーの腕時計